

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-142886

(P2017-142886A)

(43) 公開日 平成29年8月17日(2017.8.17)

(51) Int.Cl.		F I		テーマコード (参考)
H O 1 R	4/64	(2006.01)	H O 1 R 4/64	C
H O 1 R	4/48	(2006.01)	H O 1 R 4/48	C

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2016-21560 (P2016-21560)
 (22) 出願日 平成28年2月8日 (2016.2.8)

(71) 出願人 000183406
 住友電装株式会社
 三重県四日市市西末広町1番14号
 (74) 代理人 110000497
 特許業務法人グランダム特許事務所
 (72) 発明者 北川 裕士
 三重県四日市市西末広町1番14号 住友
 電装株式会社内

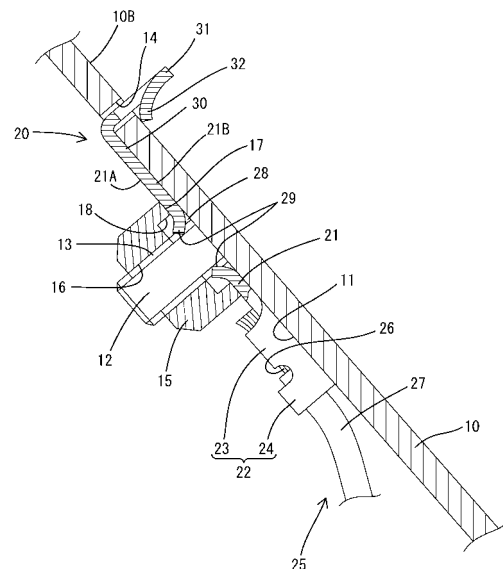
(54) 【発明の名称】 アース用接続構造及びアース用端子金具

(57) 【要約】

【課題】アース用端子金具を板状アース部材に確実に仮保持する。

【解決手段】アース用接続構造は、アース用端子金具20に形成されたボルト孔28と、ボルト孔28の内周縁に形成されてスタッドボルト12の雄ネジ部13に係止される弾性係止片29と、アース用端子金具20に形成されて板状アース部材10の回り止め孔14に係止される回り止め部31と、回り止め部31に形成され、回り止め孔14の孔縁部に係止することで回り止め部31が回り止め孔14から離脱することを規制する弾性抜止片32とを備えている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

貫通形態の回り止め孔が形成された板状アース部材と、
前記板状アース部材の接地面から突出したスタッドボルトと、
前記接地面に接触した状態で前記板状アース部材に導通可能に接続されるアース用端子金具と、
前記アース用端子金具に形成され、前記スタッドボルトを貫通させるボルト孔と、
前記スタッドボルトの雄ネジ部にねじ込まれることで、前記アース用端子金具を前記接地面との間で挟み付けるナットと、
前記ボルト孔の内周縁から突出した形態であり、前記雄ネジ部に対して弾性的に係止可能な弾性係止片と、
前記アース用端子金具に形成され、前記ボルト孔に前記スタッドボルトを貫通させた状態で前記回り止め孔への係止が可能な回り止め部と、
前記回り止め部に形成され、前記回り止め孔の孔縁部に係止することで前記回り止め部が前記回り止め孔から離脱することを規制する弾性抜止片とを備えていることを特徴とするアース用接続構造。

【請求項 2】

前記回り止め部が、前記板状アース部材における前記回り止め孔の貫通方向と略平行な平板状をなしていることを特徴とする請求項 1 記載のアース用接続構造。

【請求項 3】

前記スタッドボルトの軸線方向において、前記回り止め部の突出寸法が前記スタッドボルトの突出寸法より小さい寸法に設定されていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載のアース用接続構造。

【請求項 4】

前記アース用端子金具が、前記ナットと当接可能であって、前記ボルト孔が形成された平板状の端子本体部を有し、

前記弾性係止片が前記端子本体部から前記スタッドボルトの突出端側へ斜めに突出した形態であり、

前記ナットの座面には、前記弾性係止片を収容可能な収容凹部が形成されていることを特徴とする請求項 1 ないし請求項 3 のいずれか 1 項記載のアース用接続構造。

【請求項 5】

スタッドボルトが突出する板状アース部材の接地面に対し導通状態で接続可能であり、
前記スタッドボルトを貫通させるボルト孔と、

前記ボルト孔の内周縁に形成され、前記スタッドボルトの雄ネジ部に係止される弾性係止片と、

前記板状アース部材に形成された貫通形態の回り止め孔への係止が可能な回り止め部と、

前記回り止め部に形成され、前記回り止め孔の孔縁部に係止することで前記回り止め部が前記回り止め孔から離脱することを規制する弾性抜止片とを備えていることを特徴とするアース用端子金具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、アース用接続構造及びアース用端子金具に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 には、ボディパネルに立設したスタッドボルトに、アース端子の挿通孔を嵌合し、挿通孔に形成した係合爪をスタッドボルトのネジ溝に係合する構造が開示されている。この構造によれば、ナット等の締付け手段を用いることなく、アース端子をボディパネルに仮保持することが可能である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2010-198856号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

上記の仮保持構造は、係合爪がスタッドボルトのネジ溝に引っ掛かっているだけであるから、ボディパネルがオーバーハング状に傾いていてスタッドボルトが斜め下向きに突出している場合には、アース端子が自重によりスタッドボルトから抜け落ちることが懸念される。

10

【0005】

本発明は上記のような事情に基づいて完成されたものであって、アース用端子金具を板状アース部材に確実に仮保持できるようにすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

第1の発明のアース用接続構造は、
貫通形態の回り止め孔が形成された板状アース部材と、
前記板状アース部材の接地面から突出したスタッドボルトと、
前記接地面に接触した状態で前記板状アース部材に導通可能に接続されるアース用端子金具と、

20

前記アース用端子金具に形成され、前記スタッドボルトを貫通させるボルト孔と、
前記スタッドボルトの雄ネジ部にねじ込まれることで、前記アース用端子金具を前記接地面との間で挟み付けるナットと、
前記ボルト孔の内周縁から突出した形態であり、前記雄ネジ部に対し弾性的に係止可能な弾性係止片と、

前記アース用端子金具に形成され、前記ボルト孔に前記スタッドボルトを貫通させた状態で前記回り止め孔への係止が可能な回り止め部と、

前記回り止め部に形成され、前記回り止め孔の孔縁部に係止することで前記回り止め部が前記回り止め孔から離脱することを規制する弾性抜止片とを備えているところに特徴を有する。

30

【0007】

第2の発明のアース用端子金具は、

スタッドボルトが突出する板状アース部材の接地面と、前記スタッドボルトの雄ネジ部にねじ込まれたナットとの間で挟み付けられることで、前記接地面に導通状態に接続されるものであり、

前記スタッドボルトを貫通させるボルト孔と、

前記ボルト孔の内周縁から突出した形態であり、前記雄ネジ部に対し弾性的に係止可能な弾性係止片と、

前記板状アース部材に形成された貫通形態の回り止め孔への係止が可能な回り止め部と

40

、
前記回り止め部に形成され、前記回り止め孔の孔縁部に係止することで前記回り止め部が前記回り止め孔から離脱することを規制する弾性抜止片とを備えているところに特徴を有する。

【発明の効果】

【0008】

弾性抜止片をスタッドボルトの雄ネジ部に係止させ、弾性抜止片を回り止め孔の孔縁部に係止させると、異なる2箇所における係止手段によって、アース用端子金具を板状アース部材に確実に仮保持することができる。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 0 9 】

【 図 1 】 実施例 1 のアース用接続構造の断面図

【 図 2 】 アース用端子金具の正面図

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 0 】

第 1 及び第 2 の発明は、前記回り止め部が、前記板状アース部材における前記回り止め孔の貫通方向と略平行な平板状をなしていてもよい。この構成によれば、回り止め部を回り止め孔に真っ直ぐ差し込むだけで係止状態になるので、作業性がよい。

【 0 0 1 1 】

第 1 及び第 2 の発明は、前記スタッドボルトの軸線方向において、前記回り止め部の突出寸法が前記スタッドボルトの突出寸法より小さい寸法に設定されていてもよい。この構成によれば、ボルト孔をスタッドボルトに嵌合した後で、回り止め部を回り止め孔に挿入することができるので、ボルト孔の嵌合と回り止め部の挿入を同時に行う場合に比べると、作業性がよい。

【 0 0 1 2 】

第 1 の発明は、前記アース用端子金具が、前記ナットと当接可能であって、前記ボルト孔が形成された平板状の端子本体部を有し、前記弾性係止片が前記端子本体部から前記スタッドボルトの突出端側へ斜めに突出した形態であり、前記ナットの座面には、前記弾性係止片を収容可能な収容凹部が形成されていてもよい。この構成によれば、弾性係止片をスタッドボルトの雄ネジ部に弾性的に当接させながらボルト孔をスタッドボルトに嵌合させる過程では、弾性係止片が雄ネジ部に突き当たることがないので、スタッドボルトへの嵌合の作業性が良い。また、弾性係止片はスタッドボルトの突出端側へ突出しているため、ナットの座面と干渉することが懸念されるが、座面には、弾性係止片を収容可能な収容凹部が形成されているので、端子本体部を接地面とナットの間で確実に挟み付けることができる。

【 0 0 1 3 】

< 実施例 1 >

以下、本発明を具体化した実施例 1 を図 1 ～ 図 2 を参照して説明する。尚、以下の説明において、前後の方向については、上下の方向については、図 1 , 2 にあらわれる向きを、そのまま上方、下方と定義する。左右の方向については、図 2 にあらわれる向きを、そのまま左方、右方と定義する。

【 0 0 1 4 】

本実施例のアース接続構造は、自動車のボディを構成する板状アース部材 1 0 と、板状アース部材 1 0 の接地面 1 1 (表面) から突出したスタッドボルト 1 2 と、スタッドボルト 1 2 にねじ込まれるナット 1 5 と、板状アース部材 1 0 の接地面 1 1 に接続されるアース用端子金具 2 0 とを備えている。板状アース部材 1 0 のうち接地面 1 1 が形成されている領域は、概ね平面で構成され、斜め下方に面している。つまり、接地面 1 1 はオーバハング状に傾斜している。

【 0 0 1 5 】

板状アース部材 1 0 には、板厚方向に貫通した形態の回り止め孔 1 4 が形成されている。スタッドボルト 1 2 は、接地面 1 1 における回り止め孔 1 4 よりも下方の位置に配され、軸線を接地面 1 1 と略直角に向けて斜め下方へ突出している。スタッドボルト 1 2 の外周には、雄ネジ部 1 3 が形成されている。

【 0 0 1 6 】

ナット 1 5 の中心には、雄ネジ部 1 3 にねじ込まれる雌ネジ孔 1 6 が貫通して形成されている。ナット 1 5 は、その座面 1 7 を接地面 1 1 と対向させる向きでスタッドボルト 1 2 にねじ込まれるようになっている。ナット 1 5 には、座面 1 7 における雌ネジ孔 1 6 の孔縁部を雌ネジ孔 1 6 と同心の円形に凹ませた形態の収容凹部 1 8 が形成されている。収容凹部 1 8 の内径は、スタッドボルト 1 2 の外径よりも大きい寸法である。収容凹部 1 8 は雌ネジ孔 1 6 に連通している。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 7 】

アース用端子金具 2 0 は、所定形状の金属板材に曲げ加工等を施して成形したものである。アース用端子金具 2 0 は、端子本体部 2 1 と、圧着部 2 2 と、回り止め部 3 1 とを備えた単一部品である。端子本体部 2 1 は、正面視形状が略方形の平板状をなしており、接地面 1 1 に対して面接触状態で当接する。

【 0 0 1 8 】

圧着部 2 2 は、端子本体部 2 1 の下端縁から下方へ延出した形態である。圧着部 2 2 は、ワイヤパレル部 2 3 と、ワイヤパレル部 2 3 の下方に連なるように配されたインシュレーションパレル部 2 4 とから構成されている。ワイヤパレル部 2 3 には、被覆電線 2 5 の上端部において露出した芯線 2 6 が導通可能に圧着されている。インシュレーションパレル部 2 4 には、被覆電線 2 5 の上端部の絶縁被覆 2 7 が圧着されている。

10

【 0 0 1 9 】

端子本体部 2 1 の中心には、端子本体部 2 1 を板厚方向に貫通した形態であって、正面視形状が円形をなすボルト孔 2 8 が形成されている。ボルト孔 2 8 の内径は、スタッドボルト 1 2 の外径よりも大きく、収容凹部 1 8 の内径よりも小さい寸法である。

【 0 0 2 0 】

端子本体部 2 1 には、ボルト孔 2 8 の孔縁部から片持ち状に突出した形態の 4 つの弾性係止片 2 9 が形成されている。4 つの弾性係止片 2 9 は、形状及び寸法が共通であり、周方向において 90° の等角度ピッチで配置されている。各弾性係止片 2 9 は端子本体部 2 1 に対して弾性的に相対変位し得るようになっている。

20

【 0 0 2 1 】

正面視における各弾性係止片 2 9 の突出方向は径方向内向きである。正面視において、4 つの弾性係止片 2 9 の突出端に内接する仮想円（図示省略）の直径は、スタッドボルト 1 2 の外径よりも小さい寸法である。また、端子本体部 2 1 と平行に視たとき、各弾性係止片 2 9 は、端子本体部 2 1 の表面 2 1 A 側へ斜めに突出している。端子本体部 2 1 の表面 2 1 A は、アース用端子金具 2 0 を板状アース部材 1 0 に接続したときに、ナット 1 5 の座面 1 7 が当接する面である。

【 0 0 2 2 】

端子本体部 2 1 には、その上端縁から上方へ片持ち状に突出した形態の基板部 3 0 が形成されている。基板部 3 0 の上端縁（突出端縁）からは、略平板状をなす回り止め部 3 1 が、端子本体部 2 1 の裏面 2 1 B 側へ略直角に突出するように形成されている。端子本体部 2 1 の裏面 2 1 B は、アース用端子金具 2 0 を板状アース部材 1 0 に接続したときに接地面 1 1 に面接触する側の面である。

30

【 0 0 2 3 】

回り止め部 3 1 には、その一部を切り起こした形態の弾性抜止片 3 2 が形成されている。弾性抜止片 3 2 は、回り止め部 3 1 の突出端側から基端側（基板部 3 0 側）に向かうように、且つ回り止め部 3 1 に対して斜め方向へ片持ち状に突出した形態である。弾性抜止片 3 2 は、回り止め部 3 1 からその下面側（ボルト孔 2 8 及びスタッドボルト 1 2 に接近する方向）へ突出している。端子本体部 2 1 の板厚方向において、基板部 3 0 と弾性抜止片 3 2 の突出端との間の間隔は、板状アース部材 1 0 の板厚とほぼ同じ寸法である。また、端子本体部 2 1（基板部 3 0）の裏面 2 1 B からの回り止め部 3 1 の突出寸法は、接地面 1 1 からのスタッドボルト 1 2 の突出寸法よりも小さい寸法に設定されている。

40

【 0 0 2 4 】

次に、アース用端子金具 2 0 を板状アース部材 1 0 に接続する手順を説明する。スタッドボルト 1 2 にナット 1 5 をねじ込む前に、端子本体部 2 1 を接地面 1 1 とほぼ平行に向けた状態で、アース用端子金具 2 0 のボルト孔 2 8 をスタッドボルト 1 2 の突出端部に嵌合する。このとき、回り止め部 3 1 の突出端は接地面 1 1 に到達していない。ボルト孔 2 8 をスタッドボルト 1 2 に嵌合すると、4 つの弾性係止片 2 9 が弾性変形した状態で雄ネジ部 1 3 の溝部（図示省略）に係止する。

【 0 0 2 5 】

50

この状態から、アース用端子金具 20 を接地面 11 に接近させていくと、ボルト孔 28 がスタッドボルト 12 の基端側へ変位するとともに、弾性係止片 29 が弾性変形しながら雄ネジ部 13 の山部（図示省略）を乗り越えていく。ここで、スタッドボルト 12 の軸線方向における弾性係止片 29 の突出方向は、スタッドボルト 12 の突出端側（つまり、端子本体部 21 の移動方向とは逆方向）であるから、弾性係止片 29 の突出端が雄ネジ部 13 の溝部に突き当たって引っ掛かりを生じることはない。

【0026】

アース用端子金具 20 を接地面 11 に接近させていくのに伴い、回り止め部 31 が接地面 11 に接近していくので、スタッドボルト 12 を中心として端子本体部 21 を回転させ、回り止め部 31 を回り止め孔 14 と対応するように位置合わせする。位置合わせした後、アース用端子金具 20 を更に接地面 11 に接近させると、回り止め部 31 が回り止め孔 14 内に挿入されていく。このときの挿入方向は、回り止め部 31 の突出方向とほぼ平行な向きである。

10

【0027】

回り止め部 31 が回り止め孔 14 に挿入される過程では、弾性抜止片 32 が回り止め孔 14 の孔縁と干渉して弾性変形する。そして、端子本体部 21 と基板部 30 が接地面 11 に面接触状態で当接すると、アース用端子金具 20 は板状アース部材 10 に対して正規の接続状態と同じ位置関係となる。このとき、4 つの弾性係止片 29 が雄ネジ部 13 に対し弾性的に係止しているので、この係止作用により、端子本体部 21 のうちボルト孔 28 の近傍部分は、接地面 11 に対して離間する方向への変位を規制される。

20

【0028】

同じく端子本体部 21 と基板部 30 が接地面 11 に面接触状態で当接すると、弾性抜止片 32 が回り止め孔 14 を通過し終わるので、弾性抜止片 32 が弾性復帰する。弾性復帰した弾性抜止片 32 の突出端が、板状アース部材 10 の裏面 10B（接地面 11 とは反対側の面）における回り止め孔 14 の孔縁部に対し突き当たるように係止する。この係止により、回り止め部 31 が回り止め孔 14 から抜け出す方向への変位を規制され、回り止め部 31 が接地面 11 から離間する方向への変位を規制される。

【0029】

このように、アース用端子金具 20 は、ボルト孔 28 における弾性係止片 29 による係止作用と、回り止め部 31 における弾性抜止片 32 による係止作用とにより、接地面 11（板状アース部材 10）に対して正規の接続状態と同じ位置関係に仮保持される。ここで、接地面 11 は斜め下向きのオーバーハング状の面であるため、アース用端子金具 20 がその自重によって落下することが懸念される。しかし、アース用端子金具 20 は、上下に間隔を空けた 2 箇所板状アース部材 10 側に係止されているので、落下することなく確実に板状アース部材 10 に仮保持される。

30

【0030】

このように接地面 11 にアース用端子金具 20 を仮保持した後は、ナット 15 をスタッドボルト 12 のねじ込んでいく。ナット 15 をスタッドボルト 12 の基端部までねじ込んでいくと、ナット 15 の座面 17 が端子本体部 21 の表面 21A に面当たり状態で当接する。そして、ナット 15 を所定のトルクで締め付けると、ナット 15 が端子本体部 21 を接地面 11 に押圧し、端子本体部 21 がナット 15 と接地面 11 との間で挟み付けられる。尚、ナット 15 を締め付ける際には、回り止め部 31 が回り止め孔 14 に係止しているので、アース用端子金具 20 がナット 15 と一緒に連れ回りすることはない。以上により、アース用端子金具 20 の端子本体部 21 が板状アース部材 10 の接地面 11 に対し確実に導通可能に接続される。

40

【0031】

本実施例 1 のアース接続構造は、貫通形態の回り止め孔 14 が形成された板状アース部材 10 と、板状アース部材 10 の接地面 11 から突出したスタッドボルト 12 と、接地面 11 に接触した状態で板状アース部材 10 に導通可能に接続されるアース用端子金具 20 と、スタッドボルト 12 の雄ネジ部 13 にねじ込まれることでアース用端子金具 20 を接

50

地面 1 1 との間で挟み付けるナット 1 5 とを備えている。

【 0 0 3 2 】

アース用端子金具 2 0 には、スタッドボルト 1 2 を貫通させるボルト孔 2 8 が形成されている。ボルト孔 2 8 の内周縁からは、雄ネジ部 1 3 に対し弾性的に係止可能な弾性係止片 2 9 が突出している。また、アース用端子金具 2 0 には、ボルト孔 2 8 にスタッドボルト 1 2 を貫通させた状態で回り止め孔 1 4 への係止が可能な回り止め部 3 1 が形成されている。そして、回り止め部 3 1 には、回り止め孔 1 4 の孔縁部に係止することで回り止め部 3 1 が回り止め孔 1 4 から離脱することを規制する弾性抜止片 3 2 が形成されている。

【 0 0 3 3 】

この構成によれば、弾性抜止片 3 2 をスタッドボルト 1 2 のネジ溝に係止させ、弾性抜止片 3 2 を回り止め孔 1 4 の孔縁部に係止させると、異なる 2 箇所における係止手段によって、アース用端子金具 2 0 を板状アース部材 1 0 に確実に仮保持することができる。

【 0 0 3 4 】

また、回り止め部 3 1 は、板状アース部材 1 0 における回り止め孔 1 4 の貫通方向と略平行な平板状をなしている。この構成によれば、回り止め部 3 1 を回り止め孔 1 4 に真っ直ぐ差し込むだけで係止状態になるので、作業性がよい。

【 0 0 3 5 】

また、スタッドボルト 1 2 の軸線方向において、端子本体部 2 1 の裏面 2 1 B を基準とする回り止め部 3 1 の突出寸法は、スタッドボルト 1 2 の接地面 1 1 からの突出寸法より小さい寸法に設定されている。この構成によれば、ボルト孔 2 8 をスタッドボルト 1 2 に嵌合した後で、回り止め部 3 1 を回り止め孔 1 4 に挿入することができるので、スタッドボルト 1 2 に対するボルト孔 2 8 の嵌合と、回り止め孔 1 4 に対する回り止め部 3 1 の挿入を同時に行う場合に比べると、作業性がよい。

【 0 0 3 6 】

また、アース用端子金具 2 0 は、ナット 1 5 と当接可能であって、ボルト孔 2 8 が形成された平板状の端子本体部 2 1 を有しており、端子本体部 2 1 の表面 2 1 A にはナット 1 5 の座面 1 7 が当接するようになっている。そして、弾性係止片 2 9 は、端子本体部 2 1 からスタッドボルト 1 2 の突出端側へ斜めに突出した形態であり、ナット 1 5 の座面 1 7 には、弾性係止片 2 9 を収容可能な収容凹部 1 8 が形成されている。

【 0 0 3 7 】

この構成によれば、弾性係止片 2 9 をスタッドボルト 1 2 の雄ネジ部 1 3 に弾性的に当接させながらボルト孔 2 8 をスタッドボルト 1 2 に嵌合させる過程では、弾性係止片 2 9 が雄ネジ部 1 3 に突き当たることがないので、スタッドボルト 1 2 への嵌合の作業性が良い。また、弾性係止片 2 9 はスタッドボルト 1 2 の突出端側へ突出しているため、ナット 1 5 の座面 1 7 と干渉することが懸念されるが、座面 1 7 には、弾性係止片 2 9 を収容可能な収容凹部 1 8 が形成されているので、ナット 1 5 の座面 1 7 を確実に端子本体部 2 1 の表面 2 1 A に確実に当接させ、端子本体部 2 1 を接地面 1 1 とナット 1 5 の間で確実に挟み付けることができる。

【 0 0 3 8 】

< 他の実施例 >

本発明は上記記述及び図面によって説明した実施例に限定されるものではなく、例えば次のような実施例も本発明の技術的範囲に含まれる。

(1) 上記実施例では、回り止め部が、回り止め孔の貫通方向と略平行な平板状をなしているが、回り止め部は段差状に屈曲した形状であってもよい。

(2) 上記実施例では、複数の弾性係止片を形成したが、弾性係止片の数は 1 つだけであってもよい。

(3) 上記実施例では、弾性抜止片が回り止め部の下面側（スタッドボルトに接近する側）へ突出しているが、弾性抜止片は回り止め部の上面側へ突出する形態でもよい。

(4) 上記実施例では、アース用端子金具を板状アース部材に接続した状態で、回り止め部がボルト孔よりも上方に位置するようにしたが、これに限らず、回り止め部がボルト

10

20

30

40

50

孔よりも下方に位置するようにしてもよく、回り止め部がボルト孔とほぼ同じ高さに位置するようにしてもよい。

(5) 上記実施例では、スタッドボルトの軸線方向における回り止め部の突出寸法をスタッドボルトの突出寸法より小さくしたが、これに限らず、回り止め部の突出寸法をスタッドボルトの突出寸法より大きくしてもよく、回り止め部の突出寸法とスタッドボルトの突出寸法を同じ寸法にしてもよい。

(6) 上記実施例では、弾性係止片をスタッドボルト突出端側へ突出させたが、弾性係止片は、接地面側へ突出させた形態であってもよい。

【符号の説明】

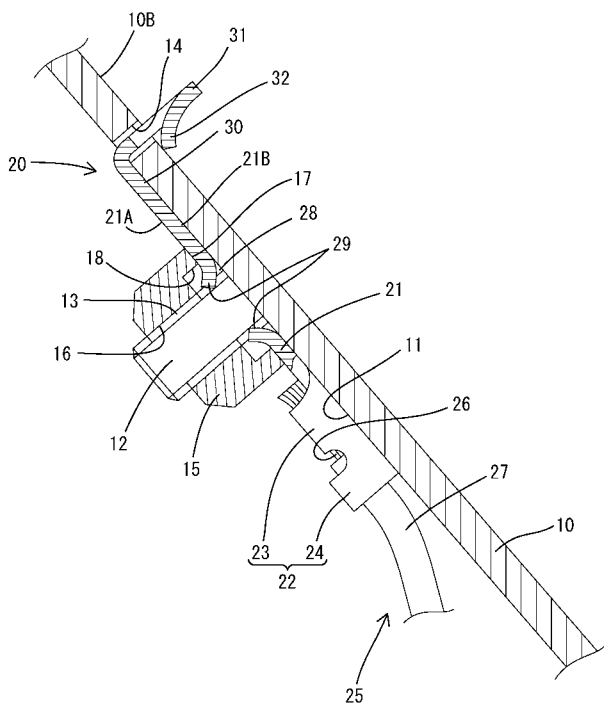
【0039】

- 10 ... 板状アース部材
- 11 ... 接地面
- 12 ... スタッドボルト
- 13 ... 雄ネジ部
- 14 ... 回り止め孔
- 15 ... ナット
- 16 ... 座面
- 17 ... 収容凹部
- 20 ... アース用端子金具
- 21 ... 端子本体部
- 28 ... ボルト孔
- 29 ... 弾性係止片
- 31 ... 回り止め部
- 32 ... 弾性抜止片

10

20

【図1】



【図2】

